

## 別紙2

## 会議記録

会議名称	令和元年度第2回北本市立小・中学校通学区域審議会	
開会及び閉会日時	令和元年7月23日(火) 午後3時から午後4時15分	
開催場所	北本市役所 会議室3-B	
議長氏名	佐藤 豊明	
出席委員(者)氏名	山内 武、長谷部 務、醍醐 隆、諏訪 光明、赤塚 浩二、秋葉 清、 佐藤 利彦、田島 和生、林 信好、石塚 富美江、西山 宏、佐藤 豊明、 小川 和子、小澤 理絵	
欠席委員(者)氏名	無	
説明者の職氏名	教育長：清水 隆 教育部長：原口 穰 学校教育課長：坂口 修、学校教育課副課長：内田 浩子	
事務局職員職氏名	学校教育課主幹兼指導主事：木暮 克敏（書記）	
会議次第	1 開会 2 教育長あいさつ 3 会長あいさつ 4 諸説明 5 議事 6 閉会	
配布資料	1 次 第 2 資 料 令和元年度第1回北本市立小・中学校通学区域審議会協議のまとめ 3 参考資料 各学校の平成31年4月1日現在 年齢別（0歳～5歳）人数・学級数	

発 言 者	発 言 内 容
学校教育課長  議長（佐藤会長）	1 開会  2 教育長あいさつ  3 会長あいさつ  4 諸説明  5 議事 事務局から資料に基づき説明。
小澤委員	<p>ただ今、事務局から説明があったが、本日は、方向性を明確にし、どのような答申をしたらよいかその内容について検討していただきたい。まず、資料の5つの視点についてご意見やご質問はあるか。</p> <p>通学区域の見直しに関してだが、栄小の児童が南小・石戸小・西小へ通学することが考えられるが、受け入れる3校のメリットがあるか考えてしまう。子供たちのために第一に考えるとしたら、公団地域コミュニティのよさを守っていききたい。公団地域は、自治会やコミュニティが活発に子供のために活動している。老人会や民生委員も地域の見回りなどをして、保護者や子供たちとの距離が近い。ここがいいところであるので、よさを生かした上で他の学校に受け入れてもらえるかを考えるとよいと思う。</p>
学校教育課副課長  議長（佐藤会長）	<p>参考資料をご覧いただきたい。メリットやデメリットを考えてみた。この資料は、これから入学するであろう子供たちの人数を統計の中から抜き出したものである。こちらの児童が入学した時の学級数を確認したところ、栄小は常に1学級である。石戸小も1学級になるであろうと予測できる。南小は、2学級の学級編制が見込まれる。西小は、2～3学級の学級編制が見込まれる。</p> <p>もし栄小が、近隣の小学校へ統合されたならば、石戸小に統合した場合のみ学級数に変化が見られた。現在3・4歳の児童が入学する際に2学級編制となることが見込まれた。これは、クラス替えをすることができるというメリットもある。南小及び西小へ統合した場合には、学級数の変動はない。参考資料を基にご意見をいただきたい。</p>
田島委員	<p>この資料についてご意見はあるか。</p> <p>石戸小学校区は建売住宅が増えてきているので、この先児童数が増える可能性もある。栄小学校区から転出する家庭も加味すると、今後考慮が必要な数字になる。また、学習センターから、石戸小・南小・西小までの距離を自動車で測ったところ、ほぼ同じ距離だった。歩いて通学距離の範囲であると考えられる。コミュニティを分断するような通学区の見直しでは、児童に負担がかかる。公団のコミュニティ活動は進んでいる。だからこそ、児童・保護者が満足いくものを考えないといけない。</p>

林委員	<p>資料には納得できない。前回の審議会で、自治会長から団地の規模縮小の話があったが、その後の土地の扱いについても、わからないことが多い。もう少しおらかな気持ちで見てほしい。コミュニティーに学校はあって当たり前である。人数は多かろうが少なかろうが学校があること、それが地域である。栄小を存続した上で学校を見直してほしい。栄小の正門付近に在住の方は南小学校区、裏門付近に在住の方は石戸小学校区である。学校も改修工事を行っているので、地域としては栄小をなくしてほしくない。ただ、保護者の意見を見ると、何とも言えないのが本音である。地域としては「学校が残る」ことの意味が大きいので、考慮してほしい。</p>
議長（佐藤会長）	<p>学校で実際にとったアンケートを見ると、「学校規模の適正化を早急に考えてほしい。」「学校規模の適正化を将来的には考えてほしい。」という意見が多かった。栄小の存続よりも、他の学校へ統合してほしいという意見も多かったが、他の方の意見はいかがか。</p>
佐藤委員	<p>現在を考えるのであれば統合もやむを得ない。しかし、公団地域が縮小となった際に、浮いた土地が公園等ではなく、マンションや戸建となった場合、町全体の動きが変わってくることが予想される。これらのことを総合して考えていかないと、北本市内の他の地域でも同じことが起こってしまう可能性がある。よって、市全体のことを考えていく必要があり、教育委員会や市がどう考えているかが大きな比重を占めている。簡単に結論を出さないほうがよいと考える。</p>
議長（佐藤会長）	<p>北本市の将来像も加味して考えていく必要があるということか。</p>
佐藤委員	<p>統合することは簡単であるが、数年先に同じことが起きるのではないかということである。新たにコミュニティー契約を結ぶことになるのかということにもなりかねない。</p>
石塚委員	<p>小澤委員の意見は、統廃合もやむなしではあるが、公団地域のコミュニティーで培ってきた地域とのかかわりが担保されるようなことを考慮してほしいということだと思う。また、石戸小が2学級になるといったメリットではなく、現在栄小や公団地域で行っていることが残されていくような策を講じてほしいということだとも思う。栄小にはいいところがあると委員会・地域から聞いているが、保護者の実態としては、学校に元気がないようなイメージが強く、転出をなかなか止めることができないことは共有できている。統廃合なのか、通学区域を編制し直すか、また、その中で公団の皆様がなさっていることが残っていくかということが論点だと思う。</p>
小澤委員	<p>栄小の児童が他校に通学することになっても、その学校において大きな人数の変化はないと思っていたところ、石戸小に通学することになると、学級数が増加することが分かった。ただ、今は小さな動きでしかないので、全体を見て通学区域を変えていく必要があると感じた。</p>
長谷部委員	<p>今は栄小の話題であるが、参考資料を見ると、石戸小学校区も視野に入れて考えていくべきだと思う。石戸小学校区はとにかく広く、他</p>

<p>醍醐委員</p>	<p>市町に隣接している。学区自体も自然豊かではあるが、児童が減少している。数年後には、一人で登下校しなくてはならない児童も出てくると思う。栄小学校が主に話題となっているが、石戸小学校とセットで考えていくことも一つの選択肢だと思う。</p> <p>2点お尋ねする。1点目は、栄小の保護者の経済的負担についてである。栄小が現状のまま存続した場合、教育に関する費用、とりわけ校外学習や教材費に関しては、人数が少ないことによって割高になるのではないかという懸念がある。全市内の一般的な教育費用と勘案して、栄小保護者の経済的負担が大きくなった場合、市は補填などの考えはあるのか。2点目は、西中学校敷地内に栄小を残し、小中一貫校とする場合、現行の学校4・3・2制を大きな枠組みとして教育特区という扱いにするのか。</p>
<p>教育部長</p>	<p>保護者の経済的負担については、今のところ予算計上はしていない。教育特区については、もし小中一貫校という流れになれば、特区申請することも考えられるが、今のところ小中一貫校にする予定はない。この審議会の一歩の趣旨は、子供たちにとって一番いい状況は何かを考えるものである。もっと早く着手すべきだったというご意見もあるが、栄小の学年児童数が10人以上であったときは、今とは違う内容の協議になっていたと思う。子供たちにとって基本的な教育を受けるための学級数や人数の基準を設けた時は、今年度の栄小の新入学児童9人であったが、3人になってしまった。この減少に関しては、想像が甘かったと反省している。しかし、1学年の人数が多い時には、この審議が進まないと考えられる。また、児童数の変動に関しては、正直言ってその時にならないと分からない。その中で、子供たちにとって何を優先するか、また、現在の良好なコミュニティーをどう維持していけばよいかを考えなければならない。公団の今後の変化や市の方針が児童数に反映されてくるのは、おそらく10年先である。審議していただく内容については、現在1年生の3人の児童に対し、10年先まで現状の学校教育でいいのだろうかということである。</p>
<p>林委員</p>	<p>通学区域を変更することについては、メリットやデメリットはある。我々の考えでは地域性の比重が大きい。グリーンハイツができた当初は、石戸小学校区であると行政は決めていたが、地番で考えるならば栄小学校区であったため、公団地域であるとして、栄小学校へ通学することとなった。公団地域の周りの戸建がある地域も吸収してコミュニティーとしての地域性を作っていくことが大切だと思う。コミュニティーの見直しも検討していかななくてはならないと考えている。統廃合については、簡単に結論を出さないほうがよい。</p>
<p>赤塚委員</p>	<p>地域ありきなのか、子供たちの健全な育成ありきなのか。どちらも大切ではあるが、コミュニティーの圏域を考えることは時間がかかる。その間、栄小の児童はこのままでよいのかということが、この検討の出発点だと思う。コミュニティーの圏域についても、まちづくりの一環として栄小の新たな利用方法が決まるまでは、栄小の児童が減り続けても、我々大人たちは手を付けてあげられないのかという問題がある。市内でも同じような問題が起きてくると思うが、状況の変化を見てしっかりと大人たちがこのままでよいのかを考えていかなければ</p>

<p>田島委員</p>	<p>ればならないことだと思う。</p> <p>榮小の現実を見たときに、1年生のコミュニティーがない。この1年生の児童と保護者が3人で榮小学校へ通いたいのか、そうでなくてもよいのかを勘案して、今後の北本市の状況を教育委員会がまとめて、審議するものであると考える。このまま3人の児童や保護者が、学校生活において離島の生活のようなことが起きていることは、よいことではない。どこの学校へ通ったら一番幸せなのか、保護者としても安心して通わせられるのかを考えて進んでいかないといけない。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>話合いの原点は、北本市立榮小学校の適正配置に伴う通学区域の見直しである。</p>
<p>田島委員</p>	<p>榮小に通っている児童が、自分の望む学校へ通学することはできるのか。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>通学区域を考えると、市教委でそれぞれの立場に立って考えていくと思う。</p>
<p>教育部長</p>	<p>学校区域に関しては、分けることは難しい。コミュニティーの維持を考えると、公団地域に在住する児童は1つとして考えることが望ましいと思う。また、特別な理由がある場合には、個々の案件ごとに指定校の変更が認められている。また、どこの学校に通学したら幸せかということではなく、公教育は、どこにいても同じように全ての児童生徒が幸せになれることを目指している。</p>
<p>石塚委員</p>	<p>この審議会は、今後の北本市内の学校における通学区域を考える上でのスタンダードにならなくてはならない。児童生徒の通学の安全を第一に考えていくことが、客観性があり、説明が付きやすいと考える。学校が変わったとしても、地域に戻ってきたときに関わり方を工夫していただければと思う。この少人数では、校長としては、教育効果に対する疑問を持ち続けることになる。しっかりと根拠をもって通学区域を設定し直すことが重要であるとする。</p>
<p>教育長</p>	<p>経緯をもう一度振り返っていただきたい。昨年度、北本市立学校の適正規模等に関する基本方針を策定した。北本市内の児童生徒数が減っている中、小さくなっている学校をどうしたらよいかを考えた末、これまでと同じように存続させていくことは難しいと考えた。先を見越したときには、義務教育学校も考えられる。基本方針に則った場合、榮小学校が該当校となった。通学区域があり、その指定校以外の学校へ通学するには、特例が認められなければならない。だから、子供たちにとって一番大事なことは何かを考え、通学区域を見直すために、皆様にどうしたらよいかをお諮りしているところである。大人が責任をもって子供たちのために決断していかなければ、榮小の児童に申し訳なく思う。地域・市民の方にご理解とご協力をいただければ、簡単に通学区域を変えることはできない。諮問にも「榮小学校の適正化に伴う」とあるように、適正化に伴った通学区域の見直しをお願いしたい。</p>

山内委員	保護者としては、児童生徒が望むものにほしいという願いはあるが、北本市としては、どのように捉えているかが見えない。市がどのように考えているかを示してほしい。
教育長	考えや策がないわけではない。行政側からのお願いではなく、委員の皆様の意見を参酌しながら考えさせていただきたい。
副議長(秋葉副会長)	我が家も子供が小学生だったときに、学区の変更があり、とても大変な思いをした。まずは登下校の安全を確保が一番重要ではないかと考える。現状を考えると、南大通りは圏央道につながったこともあり、非常に交通量が多い。また、公団付近には、桶川市に抜ける道があり、こちらも交通量が多い。これらを考慮し、通学区域を考えないといけない。就学前の段階で友達のいる学校であれば、比較的集団に入りやすいと考えるので、幼稚園の近いところへ通学させてあげることがあってもよいのではないか。
諏訪委員	前回ご提示いただいた保護者のアンケートは市から栄小の保護者に行ったものか。
課長	現在、栄小に在籍する児童の保護者と栄小学校区に在住している0歳から5歳のお子さんを養育している家庭にアンケートを実施した。
諏訪委員	もし、栄小の学区を広げようとした場合、隣接している石戸小・南小・西小にもアンケートをとるべきである。これだと、栄小を廃校にする方向に傾いているように感じてしまう。統廃合に関する事、及び学区の見直すことについて、隣接する学校の保護者にもわかってもらう必要があるのではないか。
小川委員	公団地域は広いので、在住している街区によって隣接する学校への距離が違う。しかし、コミュニティーを考慮すると、公団地域に在住する児童として1つの学校へ通学できることが望ましいと思う。また、他校の学区を変更し、栄小が校区を広げたとしても、今度はその学校児童が減り、同じような現象が起きてしまうのではないか。今は目の前にいる子供たちのことを考えることが必要である。人口が増えた時には、その時にまた考えればよい。
西山委員	栄小の頑張っている児童をどうするのが原点であるので、他校の学区は変更することなく、栄小の児童をどうしていくかを考えていくことがよいかと考える。
赤塚委員	私も、小川委員、西山委員の意見に賛成である。栄小を分けるのではなく、一つの地域として、他校と一緒にさせていただいたほうが子供たちにとっていいと考える。南小に来ていただければ大歓迎であるが、全体のことを考えると石戸小と一緒にあって、人数が増えた上で学校生活を送れたほうがよいと思う。
田島委員	周りの住宅も増えているので、石戸小の児童はこれ以上減ることはないと思う。今後、公団地域が縮小した後に新築住宅の建設等で発展していくこともあるかもしれないが、現状としては、一つの学校へ通

<p>議長（佐藤会長）</p> <p>教育長</p> <p>学校教育課副課長</p> <p>副議長（秋葉副会長）</p> <p>学校教育課副課長</p>	<p>学させることがよいと考える。</p> <p>皆さんの意見を整理すると、大事なことは「学校規模の適正化」と「適正配置に伴う通学区域の見直し」「隣接する小学校との統合」の3つが出てくる。配慮事項としては、「通学距離の問題」「保護者の意向」がある。通学区域の弾力的対応の中でどうするかが重要である。このことについて、いつから実施して、どのように定着させるか重要である。早急に迫っている問題なので、私が答申の方向性としてまとめさせていただいたが、本日の協議内容を基にして、事務局に答申案を作成していただき、第3回審議会にて提示する。その案を委員の皆様で検討していくことでよろしいか。</p> <p>（了承）</p> <p>本日の議事は終了いたしましたので、議長の座を解かせていただく。ご協力ありがとうございました。</p> <p>皆様からいただいた貴重なご意見を斟酌させていただき、皆様の意見が反映できるようなものにしていきたいと考えている。具体的な校名や始期については、学校規模適性化の会議と組み合わせて考えていきたいと思う。本日はありがとうございました。</p> <p>次回の会議は8月6日、市役所3階3-Bで行う。第3回は作成した答申案を皆様でご確認いただき、ご承認いただいた上、答申書を提出していただく予定となっている。</p> <p>6 閉会</p> <p>子供たちにとって重要な審議会となるので、皆様の貴重な意見が反映されるように、今後とも一人一人の児童生徒の教育を念頭においた審議をお願いします。本日はありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして令和元年度第2回北本市立小・中学校通学区域審議会を閉会する。本日はありがとうございました。</p>
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。</p> <p>令和元年 8月 1日</p> <p>会長 佐藤 豊明</p>	